



学校だより

令和4年 1月 11日

# 横浜市立榎が丘小学校

～豊かにかかわり合い、しっかり学ぶ、心身ともに健やかなえのきの子～

TEL 045(983)1067 FAX 045(983)5284

HPアドレス <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/enokigaoka>

## 1月



## それぞれの幸せ

校長 仲川 美世子

新しい年が始まりました。この冬休みはいつになく寒い日が続き、地方によっては大雪に見舞われ、横浜でも雪が舞う時間がありました。元日には、キーンと張り詰めた空気とまっすぐな日差しの中に厳かさと新鮮さを感じることができました。

例年より長い冬休みとなりましたが、それぞれのご家庭ではどのように過ごされたでしょうか。感染者が少し落ち着いている今のうちにと親戚が集まったり、少し遠出をしたりすることができたご家庭もあったことでしょう。世の中が動き出して明るい笑顔が見られるニュースもありましたが、思った通り、感染者数が少しずつ増えてきています。この2年ほど、学校で過ごす子どもたちには、我慢を強いることや制限をすることが多くなり、先日いただいた保護者アンケートの中でも、少しかわいそうなのではないかというお声がありました。我々職員としても楽しみな行事が少なくなったり、日常生活に不自由を感じさせたりすることは本意ではありません。しかし、その甲斐あってこれまでのところ大きな混乱なく過ごすことができているとも思っています。どうぞご理解いただいて、ご家庭でのバックアップをこれからもどうぞよろしくお願いいたします。

さて、そのような心持ちがなせる技なのか、ここのところ「よいところ探し」「あたりまえのありがたさ」「幸せを見つける」というような言葉をよく聞く気がします。実際、児童代表委員会でも「みとめあい」「たすけあい」「感謝」を感じたときに書いてはろうという企画で模造紙のお鍋におでんの具づくりをし、それが1枚ずつの模造紙では足りなくなり、それぞれ2枚目を用意することになったと聞きました。子どもたちの毎日も少しでもよいところを見つけて、それを意識し合うことで今ある幸せを確かめる日々を重ねているのだと思います。



この年末に見つけた新聞の投書に、相田みつをさんの「しあわせはいつもじぶんのところがきめる」という言葉に惹かれて、日常の「良かったこと探し」をしてメモをとり、後で読み返して「幸せ」と思うようにする、という記事がありました。横浜に住む年配の方の投書です。音楽プロデューサーのつんく♫さんは、「幸せって誰かから与えられるものじゃない。自分の気持ち次第」「幸せを見つけることは、難しくありません。じぶんの『好き』を知ること」「その『好き』を体感した瞬間が、『幸せ』なんだ」と連載記事の中で語っています。どの言葉にも「そう、そう」と相づちを打ちながら「いいこといなあ」と、それこそその日は「良かったこと」が見つかって「幸せ」な気持ちになりました。

始まったばかりの2022年が良いことばかりとは行かないだろうとも思います。けれども、私たち一人ひとりの幸せは、その心の持ち方によっていかようにも変化し、なにものにも邪魔されることなく、自分で決められるものだと思います。思い通りに行かないからと言ってそれが不幸なのではなく、その中に幸せを見つけれないことが不幸なのだと思います。皆様お一人お一人が、幸せを見つけることができる日々が続くよう、今年も職員一同、努力して参ります。どうぞご理解とご協力をよろしくお願いいたします。